



第2回考査 お疲れ様でした。

先週で第2回考査が終わりました。皆さん精一杯頑張れましたか？

勉強が苦手という人もいますが、高校生活のなかで学習や考査を避けることはできません。長い人生のなかでは、苦手なことや嫌なことたくさん出てきます。苦手なことや嫌なことが目の前にあらわれたとき、それに立ち向かえる自分でいたいものです。

3年生は、進路実現に向かって具体的な準備にとりかかり始めました。これから、多くの方が志望理由書・履歴書を作成すると思います。その際の注意点を確認したいと思います。「進路の手引き」のP.15やP.36を開いてください。そこには、志望理由の構成例があります。



- ① 主題の提示（自己の目標）
- ② 動機の説明1（自己の体験や経験）
動機の説明2（社会的な意義）
- ③ 主題の再提示（その学校を志望した理由）

その際、自己の体験や経験は、可能なかぎり具体的に考えてください。また、その学校を志望する理由も同様です。その学校のカリキュラム、どのような内容の研究・授業が行われているか、それは、自己の目標とどのように結びついているか。なぜ、その学校でなければならないか。

抽象的であいまいな一般論では、自分の熱意は伝わりません。

志望理由は、進学・就職にかかわらず必須です。一般入試以外で上級学校への進学を希望している場合、書類や面接で必ず聞かれると考えてください。また、就職においては、企業に提出する履歴書には「志望の動機」の欄がありますし、面接でも聞かれると思います。（就職用履歴書の「志望の動機」欄のスペースは小さいため、簡潔にまとめる必要があります）

これからそれぞれが先生方から指導を受けることとなりますが、志望理由は自分で考えるべきものです。また、その道に進むきっかけになった事柄もあっていいですが、その会社や学校でどのような人材になりたいかという点も書けるようにしてください。このようなことを十分に考えておかないと、先生方も指導に困ってしまいます。そのためには、志望先についての研究も必要です。ホームページや学校案内、オープンキャンパスなど、さまざまな情報を活用してください。現在、多くの学校でオープンキャンパスが行われています。webだけでなく、実際に見学できる場所も多くなっています。進路は、非常に重要なことですので、実際に自分の目でみてほしいと思います。また、多額のお金が必要になることや、さまざまな角度から見る必要もあることから、保護者と一緒に行くことをおすすめします。就職希望者の場合は、多くの場合、7月下旬以降に職場見学が行われることと思います。

【1・2年生へ】

大学では、入学希望者に対して高校在学中の活動報告を求めるところが多くなっています。今後は、学力だけでなく高校在学中の活動を重視した選抜に移行していくものと思われます。

学習や部活動、生徒会行事など、自分の個性にあわせて取り組んでください。その際、自分の得意なことに取り組むことは当然のことですが、自分の苦手なことに対して、どのように対処したかも重要です。ただし、特別なことではありません。一つ一つ、目の前のことに取り組んでください。

裏面に、志望理由書や履歴書など、みなさんが公的な文書を作成する上での注意点をあげておきます。

書き言葉と話し言葉

志望理由書や履歴書など公用の文書では適切な言葉使いが求められます。日常使用している言葉使いと異なるため、注意が必要です。

① 話し言葉と書き言葉（例）

話し言葉	書き言葉
だから	したがって
でも/だけど	しかし
~だけど	~だが
じゃない	ではない
とっても/すごく	非常に/極めて
あんまり	あまり
いっぱい	多く/数多く
ちょっと	少し/多少
なのに	それなのに/それにもかかわらず
やっぱり	やはり
でも	けれども/だが/しかし

② ら抜き言葉

- ・出れる → 出られる
- ・見れる → 見られる

* ら抜き言葉の見分け方・・・その言葉を「命令形」にしたとき「ろ」で終わる場合は「ら」を入れる。
出る：出る（命令形） 見る：見ろ（命令形）

③ い抜き言葉

- ・やってない → やっていない
- ・してた → していた

④ れ不足言葉

- ・買えれる → 買える
- ・飲めれない → 飲めない

⑤ さ入れ言葉

- ・置かさせていただく → 置かせていただく
- ・歌わさせていただく → 歌わせていただく

⑥ を入れ言葉

- ・お伝えをさせていただきます → お伝えさせていただきます
- ・お待たせをいたしました → お待たせいたしました

⑦ やる/する

- ・一人でやる → 一人で行う
- ・電話する → 電話をかける

面接でも、あまり砕けた表現は望ましくありません。
普段から注意したいものです。

